

米倉教公の月間為替市場見通し

4月号

『中期的には下落基調継続！』

ドル/円予想レンジ 110.50 - 114.50 円

ドル/円の4月勝敗表

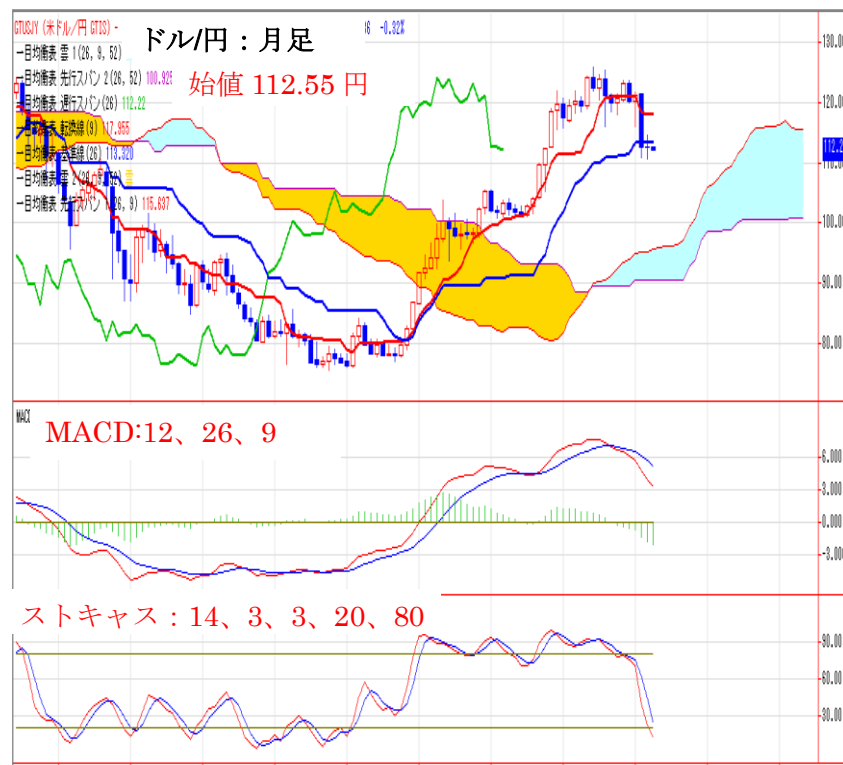
4月の相場	始値	終値	値幅	変動率	陽線・陰線
1995年	86.50	84.10	-2.4	-2.77%	陰線
1996年	107.30	105.02	-2.28	-2.12%	陰線
1997年	123.79	127.05	3.26	2.63%	陽線
1998年	132.86	132.70	-0.16	-0.12%	陰線
1999年	118.82	119.40	0.58	0.49%	陽線
2000年	102.64	107.86	5.22	5.09%	陽線
2001年	126.37	123.59	-2.78	-2.20%	陰線
2002年	132.70	128.49	-4.21	-3.17%	陰線
2003年	117.99	118.89	0.90	0.76%	陽線
2004年	104.21	110.36	6.15	5.90%	陽線
2005年	107.13	104.63	-2.5	-2.33%	陰線
2006年	117.73	113.82	-3.91	-3.32%	陰線
2007年	117.49	119.41	1.92	1.63%	陽線
2008年	99.67	103.86	4.19	4.20%	陽線
2009年	98.94	98.65	-0.29	-0.29%	陰線
2010年	98.45	93.88	-4.57	-4.64%	陰線
2011年	83.12	81.19	-1.93	-2.32%	陰線
2012年	83.01	79.82	-3.19	-3.84%	陰線
2013年	94.26	97.38	3.12	3.31%	陽線
2014年	103.22	102.23	-0.99	-0.96%	陰線
2015年	120.10	119.39	-0.71	-0.59%	陰線
平均			-0.22	-0.22%	8勝13敗

★4月は終わってみると円高になることが多い

1995年以降の過去21年間のドル/円では、8勝13敗と陰線引け（円高）となることが多い。一方、値幅での平均値は22銭の円高となっている。本邦企業の年度末決算明けとなり、新年度の新規投資を始めるというイメージが強く、円安のイメージが強いが4月の始値から終値だけを見てみると円高となることが多くなっている。2009年以降の7年間では、1勝6敗と近年は円高になっている。過去7年間の平均では1円22銭（1.33%）の円高となっている。4月1日の始値から引いた価格が終値の目標値となる。

3月は円安になることが多いことから、3月の円安後の調整月となっている可能性が高い。

※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。



★ドル/円月足では短期的な戻りは売りシグナル

一目均衡表月足チャートでは、基準線となる113.32円が上値抵抗ラインとなっている。3ヵ月連続の基準線割れとなった。ただ、MACD（パラメータ：12、26、9）では、ゼロラインの上方からデットクロスしている。また、ストキャスティクススロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%Kと%Dが共に下向きとなっている。%Kが20%割れとなってきているが、下向きを維持している。先月同様に中長期的な観点からは、短期的なドルの戻りは売りという状況だ。過去の星取りでは、4月は8勝13敗と始値からすると終値では円高になりやすい。基準線を上回らない限りいつ大幅に円高進行してもおかしくない。4月は新年度入りとなり、今年は特にマイナス金利策導入により、国内機関投資家からの新規の資金配分の外資投資（円売り・ドル買い）への期待感が高い。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。